

平成25年度 東日本大震災 被災組合員支援事業実施報告書

はじめに・・・・・・・・・・	P 1
I 趣旨・目的・・・・・・・・	P 1
II 事業実施概要・・・・・・・・	P 1
1) 業務用軽ワゴン車の共同利用	
2) 組合員証の作成と配布	
3) 営業再開店「復興マップ」作成	
4) 被災支部 相談員の設置	
5) 被災状況・営業状況調査	
III 課題点 今後の展望・・・	P 8
IV 復興マップ ・・・・・・・・	巻末



平成26年3月

岩手県飲食業生活衛生同業組合

平成25年度東日本大震災被災組合員支援事業実施報告書

岩手県飲食業生活衛生同業組合

はじめに

当組合では、東日本大震災による大津波で、沿岸4支部（陸前高田・大船渡・釜石・山田）が壊滅的被害を受けました。新たに支部となった宮古も被害が大きい。自立再建、仮設店舗や離れた土地での営業再開と復興に向かって懸命に努力しているものの、仮設店舗の営業期間の問題、人口流出に伴う顧客の減少等々多種多様な悩みを抱えています。

震災から3度目の冬を迎えても、復興まちづくりや住宅再建が思うように進んでおりません。被災組合員は街の将来の見通しが立たず焦りが募っています。

被災地の住宅は高台移転によって市街地から離れ、ますます集客力も弱まっている中、組合が一体となって、被災組合員を支えるべく事業を推進致しました。

その結果、新入会員を5名増やすことができました。これからも被災組合員が自分の店を持ち自立できるまで力となれる事業を実施してまいります。

I 趣旨・目的

被災組合員が自立再建意欲を失わないよう、組合員の力となれる事業を実施する。被災組合員の相談にのり、営業支援・自立再建への支援、又被災支部の活動の後押しをする。

II 事業実施概要

① 業務用軽ワゴン車の共同利用

軽ワゴン車3台を組合でレンタルし、陸前高田支部で2台、山田支部で1台共同利用をした。

一日平均40キロか50キロ使用しており、いまや日常の業務に欠かせないものとなっている。使用者は必ず日誌を記入し管理をしている。

本年度はレンタル期間が8月22日からと、年度初めの4月から約5ヶ月近く車が無い状態で、利用者は空き期間のない支援を強く望んでいる。

【組合員の声】

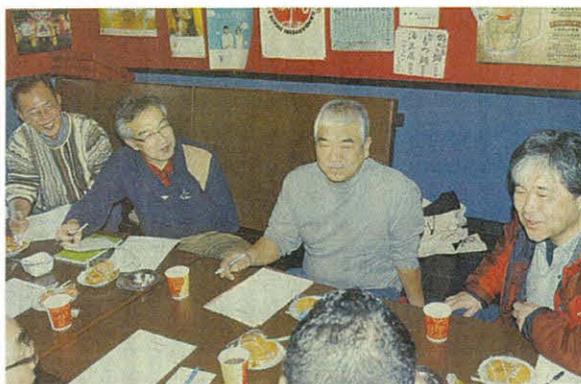
◇仮設店舗で営業を再開している店は倉庫のスペースをとる余裕がなく、共用の器具等の保管にも苦慮している。この打開策として、軽ワゴン車は保管が可能であり、更にそのまま移動することができるので大きな力となりました。



◇組合を通じて各団体から仕出しの注文があった時など、組合員だれでも使用できるので、とても役立っています。

◇被災地の住宅は、高台移転によってさらに市街地から離れ、車の利用価値はますます高まり、自立再建・更に店が軌道に乗るまで支援を望みます。

沿岸と内陸のおやじたち底力



「被災地のために何かしたいが、何をしたらいいのかわからない」。こんな言葉を常連客からよく聞かされた熊谷さんは思い立った。被災地で頑張るバンドのライブに足を運び、音楽を聞く。それだけでもいいじゃないか。陸前高田に住んでいた当時、ストリートライブを開き、商店街の活性化に役立ったこともある。自身もギター、の弾き語りや披露する音楽好きだ。熊谷さんの呼び掛けに、もりおが復興支援音楽イベントの打ち合わせをする熊谷浩昭さん（左から3人目）ら実行委のメンバー。被災地のために何かしたいが、何をしたらいいのかわからない。こんな言葉を常連客からよく聞かされた熊谷さんは思い立った。被災地で頑張るバンドのライブに足を運び、音楽を聞く。それだけでもいいじゃないか。陸前高田に住んでいた当時、ストリートライブを開き、商店街の活性化に役立ったこともある。自身もギター、の弾き語りや披露する音楽好きだ。熊谷さんの呼び掛けに、もりおが復興支援音楽イベントの打ち合わせをする熊谷浩昭さん（左から3人目）ら実行委のメンバー。

復興バンド 盛岡に結集

5月公演呼び掛け 常連客や知人後押し

三陸沿岸の「おやじバンド」を応援する音楽イベントが5月18日、盛岡市内丸の県民会館ホールで開催される。3年前の津波で壊滅していた陸前高田市の居酒屋が流され、盛岡市で営業を再開した熊谷浩昭さん（54）が発起人。賛同する常連客や知人が後押しする。被災者であり、今は盛岡に暮らす熊谷さん。「内陸と沿岸がタッグを組み、岩手は一つを再認識する場にした」と力をめぐる。

陸前高田で被災 熊谷さん（居酒屋店主）

センター長の作家斎藤純さんや、震災復興をテーマにした映画「ひとこ」を制作した高橋政彦さん（富古市出身）ら5人が集まり、実行委を立ち上げた。「被災地を巡る音楽グループは多いが、沿岸のバンドを内陸に招くという発想は面白い」と斎藤さん。被災者を元気づける最高の舞台を用意しようと、会場は県民会館を選んだ。「おやじのソコチカラ」と銘打ったイベントは、大船渡のクレヨン、陸前高田のザ・ペンチヤラスなど地元では知られた沿岸の7組と、この日のために結成する内陸の1組が出演。オリジナルやカバーを4時間にわたって響かせる。「バンドが力強く歩を踏み出せるよう、中ホールを600人の聴衆で満員したい」。熊谷さんは復興パワーをみなぎらせる。

岩手日報 2014年1月1日（水曜日）

III 課題点・今後の展望

復興道半ばで将来の街づくりの展望が見えず、土地の取得・資金繰り・高齢化等多種多様な悩みを抱える中、長い期間自立再建の意欲を維持するのは困難を極める。又、進む人口減少、分散する高台移転など、街の賑わいに不安を抱かせる現状も将来を危惧する一因となっている。

支援に対する情報が入りにくいと焦りを感じ精神的疲労を訴えている組合員も多い。そのような状況を受け止めながら組合が一丸となって自立再建意欲を失わないよう組合員の力となれる事業を引き続き実施する。

又、街の賑わい創出を念頭に他の生衛組合や、行政・地域と連携したイベント等の支援も検討してまいります。

② 組合員証の作成・配布



【11月に200枚作成：沿岸支部組合員に配布】

◇ 他県の方で、マナーの悪い人がいて困る。又、安心してお店に入れないなどの声があり、安全・安心をアピールするため、組合員加盟店シールを作成し組合員の店に貼る。

◇ 初めて入るお客様も安心感をもって入店できると好評です。

商店街の魅力づくりや、集客力を高め、観光や交流の拠点として大いに役立っている。

《お客様の声》

ステッカーがあるとホッとします。おかずを自分で選んで（家庭料理）食べる処がほしい。

復興とこれからの活性化のためご当地弁当・地元軽食の開発をお願いします。

③ 営業再開店「復興マップ」の作成配布

新たな地所や仮設店舗にての営業再開を地域住民等に広くPRするために、陸前高田・大船渡・釜石・山田支部で各々3,000部作成する。

更により集客力を高めるため、作成した「復興マップ」を盛岡・花巻・一関観光協会等に配布し、観光や交流人口を増やす努力をし組合員の営業支援をする。

※ 参考資料

復興マップは8ページ以降に掲載

④ 被災支部ごとの相談員の設置・実態把握

沿岸6支部に「被災地相談員」を設置し、日頃の情報提供・相談対応の体制を強化し、営業支援を充実化する。

一定の期間経過後に、各相談員から被災地区の状況（復興状況・経営環境・営業再開状況等）について報告を受け、沿岸地域の実態を把握するとともに、次年度の方策について検討する。

【相談員の日誌より抜粋】

◇ 1月頃から津波で被災した地域の一部（大船渡元駅前商店街）で嵩上げ工事が始まってきました。大船渡町の野々田ふ頭で大船渡湾口防波堤のケーソンを国内最大のクレーン船で移動させるというスケールの大きい作業が繰り返され、周囲に震災復旧・復興作業の進展を感じています。

◇ 2月5日に大船渡支部の新年会を3年ぶりで開催することができました。

◇ 震災から3年を迎えようとしておりますが、宮古もまだまだ復興が遅れていて、組合員の中には仮設住宅から通っている人もいます。宮古は魚の街ですが、魚介類も今一つ取れなく高値です。再開を目指している店もあり、少しでも良くなっ

ていく事を願っております。

- ◇ 釜石では、震災で壊滅的だった街の中心街の元の営業場所近くに新築再開した組合員がいます。仮設店舗営業を含めると営業再開組合員は8割くらいで、まだまだ補助や援助の対象から外れ再開できない人がいます。

「イオン」は春の開店に向け急ピッチで工事が進み店全体が姿を現しました。

- ◇ 山田町「復興マップ作成事業」は地元の人だけでなく、県内又は、他県の人にお店の紹介ができ、支援していただいた人に頑張っている様子を伝えることができます。更に組合員も増員できると期待して取り組んでいます。

⑤ 被災状況・営業状況調査（調査日：12月）

☆ 被災事業者の現時点の営業状況

大船渡支部（組合員50名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
4店舗	26店舗	14店舗	1店舗	0店舗	2店舗	3店舗

盛支部（組合員21名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
4店舗	0店舗	2店舗	0店舗	0店舗	15店舗	0店舗

高田支部（組合員19名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
0店舗	11店舗	5店舗	0店舗	2店舗	1店舗	0店舗

釜石支部（組合員33名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
9店舗	7店舗	7店舗	3店舗	0店舗	7店舗	0店舗

山田支部（組合員16名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
1店舗	5店舗	8店舗	0店舗	0店舗	2店舗	0店舗

久慈支部（組合員14名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
1店舗	0店舗	0店舗	0店舗	0店舗	13店舗	0店舗

宮古支部（組合員10名）

現地（店舗が元々あった場所）で再開	仮設店舗（中小企業整備基盤機構等）で再開	その他（別の場所）で再開	休業中（営業再開の意思あり）	廃業	被災後速やかに営業継続	不明
8店舗	0店舗	1店舗	0店舗	0店舗	1店舗	0店舗

☆ 「仮設店舗で再開」の方の、営業にあたっての問題点（被災支部全体対象）

契約期限	建物や設備等の改善に問題	従業員の確保	人口減少 お客減少	営業時間の制限	同業者の店が隣接	その他
25店舗	11店舗	14店舗	23店舗	6店舗	5店舗	1店舗

☆ その他 休業中の方の、営業再開にあたっての問題点として

- ☞ 資金の確保 2名
- ☞ 従業員の確保 2名
- ☞ 人口減少・お客減少 2名
- ☞ 都市計画、復興計画 2名 の回答がありました。

☆ 現在の課題について（寄せられた声 原文掲載）

- ・人口減少に伴いお客様が減っている。又、復興が遅れており、交通の便が悪くお客様の足が遠のいている。
- ・仮設店舗で営業していますが、外壁が薄いため寒暖の差が直接店内に影響し冷暖房費が大変です。又、玄関ドアが軽いのでネズミ等の進入が心配です。
- ・仮設住宅の入居者が震災のない内陸へ行かれることが一番の問題だと思います。
- ・現在、大船渡では、先行整備地区が10月に着工し、かさ上げなど造成工事の準備段階です。年度内に造成を終え来年度初めには商店などが建設可能となる見通しであるが、細かなイメージ提示が無く具体的に考えられない。
仮設店舗契約期限の延長を考えてほしい。後3年、仮設店舗の契約期限を延長してほしい。
- ・人口減と観光人口流入減への行政の対応が見えない。
二次産業の地方分散などを進めてほしい。
交通手段としての鉄道をBRTにしたのは間違っています。ローカル線の高速化を諮ってほしいです。首都圏との一日ビジネス圏を作ってほしいです。
- ・新規にお店を再開するにあたって借入金が大変な負担。将来的に不安です。
- ・現在高台移転の話が出ているようですが、今のところ違う場所も明確になっていない状態で先行き不安です。
- ・以前は店舗を借りて営業していました。今後テナント等がどのくらいできるのか不安です。（以前はスナックでしたが、現在は食堂を営んでいます。）

以前のように大船渡町に戻りスナックを再開したいが、設備資金が半分の300万円だけでは再開できません。もう少し何か支援を考えていただきたい。

- ・従業員の確保が難しい。
仮設店舗の延長が決まってありがたいがいつまで居れるかわからない。
本設したい場所の公募がまだ行われていない。又、公募したとしても希望の場所で営業再開できる保証はない。再開できるかどうか不安です。
- ・土地区画整理による移転についての減歩と補償額
できれば減歩はしたくない。今くらいの店舗を建設できる補償があるのか？
- ・新設での仮設店舗なので、グループ補助の対象外となっています。
新たに借金をしてまでは…と営業を継続するかどうか悩んでいます。
- ・現在仮設店舗で営業中ですが、本設を希望している中心商店街の整備のかさ上げの目途が立っておらず、具体的な将来の構想なども立てられないまま約2年の仮設での営業が続いています。
今建っている仮設店舗もいずれはかさ上げが始まる予定の所ですが、移転希望のかさ上げの時期とのタイミングで営業の長期中断もありえます。町の被害が甚大な故に、復興の目途が見えないので不安が大きいです。
- ・元、大船渡駅前にてスナックを営業していて、売上げ、コミュニティなど満足していましたが、震災後、隣町バイパスにやむなく自宅兼店舗として再開。
立地の悪さ等が原因で売上げが伸びずにいます。いずれ大船渡の町へ戻りたいと思っていますが、それまでに資金が作れるか不安です。新聞、メディア等では仮設の応援ばかりで自力で復興再開している店舗の応援も考えてほしい。
- ・早く自分の土地で営業したいです。
仮設店舗がもう少し長く契約できれば少しは安心なのですが、いつ出ていく事になるか解からず不安でいっぱいです。
- ・当店は震災後新規で営業を始めた店舗です。現在、大船渡屋台村の仮設店舗でお世話になっています。平成26年12月までの期限付きです。今後も大船渡で営業し復興を盛り上げたいと考えておりますが、先行き不透明な要素があるため決断しかねています。あらゆる面において、タイムラグのない政策をお願いしたい。
- ・代替地がどこになるのか心配です。
- ・私は被災まで従業員として勤めておりました。震災後被災地にお店をだしましたので、他のみなさんのご苦勞に比べたらと思い努力するのみです。
- ・従業員の確保。求人を出しても応募がなく営業に支障をきたしています。
- ・大船渡屋台村解散後は廃業予定。
- ・仮設店舗で営業しています。仮設共同トイレなので店の中にトイレを作りたい。
現店舗が復興計画のために移転するが場所が確定されていないために不安。
- ・市の商店区域の造成工事は30年に完了し建築可能となる構想です。
長い年数と事業者の年齢又出資の問題も含めて考え、今のところ模索中です。
- ・営業は忙しいけれど今になって精神的疲労が強くなってきている。
妻も私も疲れ、店を休むことが多くなってきました。
- ・この店舗を借り商売を始めて5年になります。盛に住んで50年は過ぎています。
前の商売は飲食店に関係があり67歳から始めました。東日本大震災は盛にも押し寄せこのような出来事に驚くばかりです。現在は2年半前に戻りました。
- ・一番の課題は従業員の確保です。現地で再開しましたが、人手がなくハローワークに出しても全く集まりません。「もっと従業員がいたら」と思う時がよくありお客様の要望にお応えできません。
- ・陸前高田で家屋・店舗とも全壊し、盛岡で早期の再開をしました。
いずれ高田での再開を決めておりますが、商店街の復興の遅れ等で問題を多く

抱えております。

再開にあたっての補助などを詳しくまとめた書類が整えばと思います。年数がたてば立つほど問題の解決が遅れ、再開の道のりが遠のきます。行政の手段を待つより自力で行動していく覚悟です。

- ・従業員の確保が困難・・復興会議等役員をしているためできるだけ出席したいと思いますがその度に休業せざるを得ない。
- ・店舗の期限が切れた後どうしたらいいのか決められない。
（公営）賃貸（店舗兼住居）なら少し長く続けたいが設備資金も心配。
換地の場所が未定ですし、若くもないので建てられるか不安です。
人が分散しているので経営の見通しが立ちません。
又、道路が渋滞していて困ります。
- ・現状については特に支障はなし。しかし、市の復興計画が見えてこないのが不安。
- ・適切な人材の確保。町の復興の遅れが影響してか売上が安定しない。
- ・現在中小機構の仮設店舗で営業しております。商店会（7企業）にて運営しておりますが、市の復興と共に本設に向け脱会していく会員が近い将来考えられる。残された会員で、現在の地代、設備の維持の負担を担えるのか。又、現在市の方向性は、有償譲渡（現在の仮設）が考えられており資金繰り等も心配です。
- ・私は幸いなことに被災後1ヶ月ぐらいで営業再開することができましたが、仲間のみなさんは真の復興には至っていないように思われます。最近、一部の会社や店舗は復興計画が急ピッチで進んでいますが、末端の飲食業はまだまだ苦しんでいます。
例：グループ補助金 ⇒ 飲食業ははじかれる。
例：再開したいが、仕事のパートナーが病気、又高齢化が進んでいる。
最近よく格差が問題視されますが、弱者に対する行政等の支援は格差があってもいいのではないのでしょうか。
- ・ライフライン復旧（半月くらい）に伴い再開しました。
6ヶ月位は、食材の関係で数種類のメニューで営業しておりましたが、今は通常通り復活しました。
- ・休業中ですが、他の方が多忙で再開の予定は今のところ考えておりません。
- ・自分の体の健康状態に問題があります。又、少々資金が不足しております。
- ・仕入れ先が仮設になったため在庫が少ない。急を要する時、他の店舗も何も近くにないので不便である。
従業員不足。ハローワークに求人を出しても全く問い合わせもない。
店までの交通手段が減ったため、少人数でもバスの送迎を依頼されるが対応しきれない。（予約をキャンセルする方も中にはいる。）
- ・仮設店舗の外で店を出しましたが、仮設の人たちは店舗の家賃を支払わなくてもいいなど片手落ちのような気がします。少しでも手伝ってほしいと思います。
- ・仮設店舗で少しでも長く営業できることを願っております。
- ・人口減少・お客様減少で困っています。
- ・復興の遅れで、店舗を再開しても廻りが何も進展がなければと不安を感じます
大潮や大雨の時など、下水が詰まらず流れてくれるかいつも心配しております。
- ・本設までの都市計画の不透明さが不安を募らせます。
- ・何をしてもまず必要なのはお金です。できることなら返さなくても良い援助金等をお願いします。
- ・元の場所にもどるには土地がありません。
借りて店を持つにしても、あまりにも家賃が高く考えてしまいます。しばらくはこのままで営業するしかありません。
- ・人手不足。
- ・人口の減少に伴う売上の伸び悩み。仮設が山手に建てられていることも要因なのか海沿いにある当店への来客が減っている。
- ・店用食器・冷凍庫がほしい。
- ・時々満潮時に店の下まで水が来るので早くかさ上げをしてほしい。
- ・従業員が確保できない事が一番大変。女の子が居ないとお客さんも来ないです。
- ・例えば市の方で建物を建ててくれたとしても、内装、設備等に掛けられる資金の確保が不安です。せめて設備だけでも（ガス、水道、電気、トイレ水洗）ひいていただければと考えてしまいます。
私の場合、20年営業していた場所から移転・新しい場所に新装開店してわずか3ヶ月での被災でしたので公庫の借入も残っている状況です。
家賃が少し割高になっても即営業できる状態の店舗を作っていただきたいと願っ

- ております。
- ・仮設店舗で営業しているが再開には資金が足りない。被災時に再開するにあたり組合からの支援がなかった。営業中の時間が制限されている。再開にあたり行政等からの支援をお願いしたい。
 - ・行政の支援はもちろん、復興計画の詳しい事があまりわからない。被災地とそうでない所の温度差がありすぎる。もっと国や県は、色々な話を聞きながら早期復興をすべきです。又、自力で家、店舗を建てる人にももっと支援してほしい。仮設に居る人たちは大変だと思う。早く復興住宅をお願いしたい。
 - ・よその町に来て営業しているのでグループ補助が受けられない。自己資金なので5分の1の大きさの店しかできない。大変厳しいです。
 - ・国道沿いのため、大型車・ダンプ等が通行していく時に店が揺れる。心配です。
 - ・営業許可が取れる地区かどうか思案しています。
 - ・被災地での補助や支援を一切受けていない。今後復興に向け活用したいがどうすればよいのか解からない。
 - ・他の地域で再開しています。他地域だと利用できる支援や補助がありません。どうにかならないでしょうか。
 - ・復興を加速させてください。
 - ・被災地に予算をまわしてください。
 - ・現在のところ復興関係の人たちで営業は順調ですが、確実に人口が減少しており先行きは未知数です。
 - ・震災前と比べて地元のお客さんが大分減少した。
 - ・今現在は、復興関係者が来店しているが、その後を思うと不安でなりません。
 - ・材料費（食材）等がかなり値上がりしてきて困っている。
 - ・設備はまに合わせで乗り越えてきたがその後故障すると思う。これ又心配。
 - ・被災した店舗の修繕費として100万円の融資を受けました。60ヶ月の返済と設備機器のローン 72ヶ月の負担が重くのしかかっている。
 - ・年々お客様が減少している。

☆ がんばる組合員

心も満腹 復興の味

岩手の未来 思いひとつに

笑顔生むホルモン丼



大震災前営んでいた店名も受け継ぐのれんを手にも、笑顔を見せる佐々木浩店長

陸前高田市高田町の高田大隅つどいの丘商店街にある「陸丸」は、早い、安い、うまいの三拍子そろった丼屋。地元で仕入れた食材を使った看板ランチ「陸丸丼」(450円)は、復興工事の関係者や仮設住宅の住民に愛されている。「おいしいものを食べて笑顔になる。そんな場所を提供し続けていきたい」。店長で同商店街副代表の佐々木浩さん(52)の願い。

市内に丼屋がないこと
に奮闘して、2012年6月末に開店した。同市でホルモンを提供して「まホルモン」と親しまれていた豚骨精肉店が大震災後に再起したと聞き、すぐ



値段も胃袋も満足する看板メニューの「陸丸丼」



「陸丸」は、船の名前に使われる「丸」を組み合わせた店名で、新たな船出をイメージした。昼(午前11時半～午後1時半)は昼食、夜(午後5～10時)は居酒屋カウンスラー6テーブル8座敷12の計26席。同市高田町大隅93の1の2。電話0106-47-6007。日曜日が定休日。

に「これだ」と陸丸丼の構想が湧いたという。特製しょうゆだれが加わったみず味ベースのホルモン、キャベツが豪快に盛られている。腸活バナーなど種類のホルモンはごまごまな食感が楽しい。ニンニクの芽、赤い糸唐辛子もアクセントとなり食欲をそそる。手頃な値段もうれしい。キノコを使った「夢アワード丼」(450円)も人気。大震災前に営んでいた小料理屋「かあちゃん」の台所一の名前は今もれんに刻み、思っている。現在休止中の「BARれもんは1」とは今春、同商店街で再開予定だ。